

「身近な土砂災害」

宇多津町立宇多津北小学校 6年 都築 結菜 さん

平成三十年七月に、西日本豪雨が発生しました。山から大きな石や土砂がたくさん落ちてきて、家も壊れたりしたそうです。死者が約二百二十四人出て、今もまだ行方不明の人がいるそうです。私はこのニュースをきっかけに、土砂災害についてもっと詳しく知りたいと思いました。そこで、親戚が体験した話を母から聞いたり、原因をインターネットで調べたりしました。

まず、母のおばが体験した話です。おばは広島市安佐南区に住んでいて、西日本豪雨が起こった後、家は大丈夫だったけれど、親戚や知人が被災したそうです。その人達は、昼間は土砂の片づけをして、夜はおばの家で寝ていたそうです。現場の写真をみると思ったよりひどかったです。

ここ数年いろいろな所で災害があったと聞きました。香川県は、大雨の被害は少ないと思っていました。土砂災害は私には今すぐは関係ないという気持ちがあったのですが、二、三年前、母が三豊にある親戚の家に行く途中、山の土砂がくずれた所を見たと言っていました。また、祖父やいとこの家に行くときや、買い物などで、週に一回ほど通る道があるのですが、そんな私にとって身近な道が、去年、土砂で片側が通れない状態になっていました。また、丸亀市では丸亀城の石垣がくずれました。亡くなった人はいませんでしたが、修復するのが大変だろうなあと感じました。私の住んでいる町は台風の被害が少ないため、ここ数年、全国ニュースに出る様な大きな土砂災害は起こっていないと思うけれど、香川の中でも、被害が大きい所は、民家がくずれたりしています。小さいころは身近な事には思っていなかったけれど、今はこわいと思います。

次に、土砂災害がどうやって起こるか、インターネットで調べてみました。主な原因の一つ目は、大雨が降ったり地しんが起きたことで地ばんがゆるみ、急激に斜面がくずれ落ちる事です。くずれてきそうな所にコンクリートでかべを造ると、対策ができるそうです。二つ目は、土石流です。これは、土砂・石礫の一部が長雨などにより水と一体となり、一気に下流へ押し流されて起こる現象で、砂防ダムを造ると、対策ができるそうです。三つ目は、地すべりです。これはしゃ面の土塊が、地すべり面にそってゆっくりと斜面下方へ移動する現象で、山に水路工や排水工を造ると対策できるそうです。

そして、土砂災害から身を守るには、「住んでいる場所がどのような地形か、どれくらい危険か調べる。」「ひなん訓練を事前しておく。」「雨が降り出したら警戒警報に注意する。」「警報が出たら早めにひなんする。」ことが大切です。どこにひなんするかを知っておけば、自分の身を守れるし、家族とも再会しやすいと思います。

私の町で起こった災害は、命に関わる被害は少なかったけれど、どの県で、どのような災害が起こったのか、何人の人達がけがをしたり亡くなったのかを知り、土砂災害は本当にこわいものだと分かりました。人に頼るのではなく、まず自分達でできることを考え、実せんして、少しでも土砂災害の被害を少なくしたいです。